

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 6 部門第 2 区分

【発行日】平成30年1月18日(2018.1.18)

【公表番号】特表2017-500600(P2017-500600A)

【公表日】平成29年1月5日(2017.1.5)

【年通号数】公開・登録公報2017-001

【出願番号】特願2016-532575(P2016-532575)

【国際特許分類】

G 0 2 B 6/44 (2006.01)

【F I】

G 0 2 B 6/44 3 0 1 B

【手続補正書】

【提出日】平成29年11月13日(2017.11.13)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

ファイバ被覆装置において、

本体であって、

(a) ファイバ入口開口と、

(b) テーパ壁を有する円錐状フェルールを形成する、第 1 の部分であって、前記円錐状フェルールの断面が、 $2^{\circ} \leq \alpha \leq 25^{\circ}$ の半角 α で傾斜している内壁と、 0.25 m から 2 mm の間の円錐高さ L_1 とを有している、第 1 の部分と、

(c) $0.1 \leq d_2 \leq 0.5 \text{ mm}$ であるような内径 d_2 および $0.05 \leq L_2 \leq 1.25 \text{ mm}$ であるような長さ L_2 を有している、円筒状部分と、

を備えている本体、

を有していることを特徴とするファイバ被覆装置。

【請求項 2】

(i) 前記ファイバ入口開口と前記テーパ壁を有する前記円錐状フェルールとの間に位置する、凸状断面を有する壁を含むことなく、 0.5 mm から 5 mm の間の内径 d_3 と 2 から 6 mm の間の高さ L_3 とを有する円筒状内壁を備えた、脚部分をさらに備えている、または、(ii) 高さ $< 1 \text{ mm}$ の凸状断面を有する壁を備えている、請求項 1 記載のファイバ被覆装置。

【請求項 3】

ファイバ被覆装置において、

サイジングダイであって、

(a) ファイバ入口開口、

(b) テーパ壁を有する円錐状フェルールを形成し、前記ファイバ入口開口に直接隣接して位置している、第 1 の部分であって、前記円錐状フェルールの断面が、 $2^{\circ} \leq \alpha \leq 25^{\circ}$ の半角 α で傾斜している内壁と、 0.25 mm から 2 mm の間の円錐高さ L_1 とを有している、第 1 の部分、および、

(c) $0.1 \text{ mm} \leq d_2 \leq 0.5 \text{ mm}$ および $0.5 d_2 \leq L_2 \leq 2.5 d_2$ であるような、実質的に一定の内径 d_2 および長さ L_2 を有している、円筒状部分、

を備えているサイジングダイ、

を有していることを特徴とするファイバ被覆装置。

【請求項 4】

$0.5\text{ mm} \leq L_1 \leq 2\text{ mm}$ および $0.2\text{ mm} \leq d_2 \leq 0.5\text{ mm}$ であり、円筒状内壁を有する脚部分をさらに備え、前記脚部分が前記円筒状部分の下流に前記円筒状部分に隣接して位置しており、前記脚部分の前記円筒状内壁が、 0.5 mm から 5 mm の間の内径と 2 mm から 6 mm の間の長さ L_3 とを有していることを特徴とする、請求項 3 記載のファイバ被覆装置。

【請求項 5】

$4^\circ \leq \alpha \leq 25^\circ$ であることを特徴とする、請求項 3 記載のファイバ被覆装置。

【請求項 6】

$L_1 \leq d_2$ であることを特徴とする請求項 4 記載のファイバ被覆装置。

【請求項 7】

$5^\circ \leq \alpha \leq 25^\circ$ であることを特徴とする、請求項 1 から 6 いずれか 1 項記載のファイバ被覆装置。

【請求項 8】

$8^\circ \leq \alpha \leq 25^\circ$ であることを特徴とする、請求項 1 から 6 いずれか 1 項記載のファイバ被覆装置。

【請求項 9】

ファイバ被覆装置において、

(I) ガイドダイと、

(I I) 前記ガイドダイに隣接して位置している第 1 のサイジングダイであって、

(a) ファイバ入口開口、

(b) テーパ壁を有する円錐状フェルールを形成し、前記ファイバ入口開口の下方に位置している、第 1 の部分であって、前記円錐状フェルールの断面が、 $2^\circ \leq \alpha_1 \leq 25^\circ$ の半角 α_1 で傾斜している内壁と、 0.25 mm から 2 mm の間の高さ L_1 とを有している、第 1 の部分、

(c) $0.1 \leq d_2 \leq 0.5\text{ mm}$ および $0.5 d_2 \leq L_2 \leq 2.5 d_2$ であるような、実質的に一定の内径 d_2 および長さ L_2 を有している、前記第 1 の部分に隣接して位置している円筒状ランド部分、および、

(d) d_2 よりも大きい内径を有し、前記第 1 の部分の上方または前記円筒状ランド部分の下方のいずれかに位置している、円筒状脚部分、

を含む、第 1 のサイジングダイと、

(I I I) 前記第 1 のサイジングダイに隣接して位置している、第 2 のサイジングダイと、

を備え、前記第 1 のサイジングダイの前記円筒状脚部分が、前記ファイバ入口開口の上方に、前記第 1 のサイジングダイの前記第 1 の部分に隣接して位置付けられていることを特徴とするファイバ被覆装置。

【請求項 10】

前記第 2 のサイジングダイが、

(a) ファイバ入口開口、

(b) テーパ壁を有する円錐状フェルールを形成し、前記ファイバ入口開口の下方に位置している、第 1 の部分であって、前記円錐状フェルールの断面が、 $2^\circ \leq \alpha_2 \leq 25^\circ$ の半角 α_2 で傾斜している内壁と、 0.25 mm から 2 mm の間の高さ L_1 とを有している、第 1 の部分、

(c) $0.1\text{ mm} \leq d_2 \leq 0.5\text{ mm}$ および $0.5 d_2 \leq L_2 \leq 2.5 d_2$ であるような、実質的に一定の内径 d_2 および長さ L_2 を有している、前記第 1 の部分に隣接して位置している円筒状ランド部分、および、

(d) d_2 よりも大きい内径を有し、前記円筒状ランド部分の下方に位置している、円筒状脚部分、

を備えていることを特徴とする請求項 9 記載のファイバ被覆装置。

【請求項 11】

$5^{\circ} \leq \alpha_1 \leq 25^{\circ}$ であることを特徴とする、請求項9または10記載のファイバ被覆装置。

【請求項12】

$8^{\circ} \leq \alpha_1 \leq 25^{\circ}$ であることを特徴とする、請求項9または10記載のファイバ被覆装置。